



# 福井県社会福祉協議会 アクションレポート

令和6年3月8日 No.12

社会福祉法人 福井県社会福祉協議会 総務企画課  
〒910-8516 福井市光陽2丁目3-22  
TEL 0776-24-2339 / FAX 0776-24-8941 / E-mail somu@f-shakyo.or.jp

このアクションレポートは、本会の主な事業等の進捗を定期的にお知らせするために、役員および関係機関向けに発行させていただくものです。

## Contents

- ✓ 令和6年能登半島地震支援活動  
被災地に寄り添い、フェーズに応じた支援を展開
- ✓ 能登半島地震避難者支援に福井DWA Tが初出動
- ✓ 持続可能な福祉社会を築く～未来志向で考える法人運営～
- ✓ ラジオ講座「いきいきライフ」受講者との双方向型に
- ✓ 介護従事者対象の研修が盛況（介護実習・普及センター事業）
- ✓ 「ちょこっと就労」成果報告会を開催！

## 令和6年能登半島地震支援活動 被災地に寄り添い、フェーズに応じた支援を展開

元日に起きた最大震度7の能登半島地震（激甚災害に指定）は、道路寸断や復旧の遅れ等のため県内外からの支援が入りにくい状況でしたが、本会は「東海北陸ブロック県市町社協災害応援に関する協定」による幹事社協として、1月9日に調整職員を石川県に派遣しました。被害状況・対応状況の確認や連絡調整の上、1月18日から奥能登を中心に東海北陸各県社協の職員の派遣が開始されました。

【2月20日現在・東海北陸ブロックの応援状況】（1クール6泊7日）

▽輪島市（福井県3名、三重県3名）

▽珠洲市（岐阜県4名、愛知県4名）

▽能登町（名古屋市2名）

**基本目標1**  
社会的孤立を生まない  
地域づくり

**基本目標3**  
制度の狭間を生まない  
包括的支援体制づくり

関連するSDGsゴール



第1クール  
出発の様子



福井県内社協が支援に入った輪島市の社協は全職員が被災、避難所からの通勤を余儀なくされ、事務局長は被災しながらも社協の建物に寝泊まりし陣頭指揮を執るという状況でした。

まだまだ先の見通しは立ちにくい状況ですが、災害初期は現地の状況把握、社協支援に始まり、被災者のニーズ調査、災害ボランティアセンターの立上げ準備、運営支援等、フェーズごとの被災地のニーズに対応すべく尽力しています。

本県からの派遣数は、石川県への先遣隊として延べ13名、輪島市への派遣として延べ117名となっています。（2月20日現在）



輪島市での活動の様子



## 能登半島地震避難者支援に福井DWA Tが初出動

**基本目標 1**  
社会的孤立を生まない  
地域づくり

**基本目標 3**  
制度の狭間を生まない  
包括的支援体制づくり

**5つのチャレンジ⑤**  
災害時福祉救援体制の強化

関連するSDGsゴール



輪島市での巡回訪問

能登半島地震の被災者を支援するため石川県や全社協の要請に基づき、本会に事務局のある福井DWA Tが令和3年10月の発足以降初めて被災地にチーム員を派遣しました。

【第1陣】1月12日（金）～31日（水）

◇活動場所 いしかわ総合スポーツセンター（金沢市）や隣接する石川県産業展示館内に開設された1.5次避難所

◇体制 1クール3人編成で4日間活動；

5クール計15人を派遣

生活環境が厳しい1次避難所からホテル等の2次避難所に移るまでの間、一時的に受け入れるために開設された1.5次避難所での活動となりました。ピーク時の避難者は200人を超え、福井チームは静岡や石川など他都道府県のチームと連携しながら、入浴やトイレの介助、見守りのほか、困りごとの聴き取りと対応などに当たりました。



金沢市1.5次避難所での聴き取り調査

【第2陣】2月18日（日）～3月1日（金）

◇活動場所 輪島市内の避難所

◇体制 1クール3人編成で実質3日間活動；

4クール計12人を派遣

岡山や岩手、千葉のチームと連携しながら避難所を巡回訪問し、被災者の状況やニーズの把握、支援に当たりました。

## 持続可能な福祉社会を築く ～未来志向で考える法人運営～

### 基本目標 3

制度の狭間を生まない  
包括的支援体制づくり  
関連するSDGsゴール



分科会の様子

12月14日（木）・15日（金）に、東海北陸6県の社会福祉法人経営者約180名の参加のもと「東海北陸6県社会福祉法人経営者セミナー『福井大会』」を開催しました。

セミナーでは、分科会、基調講演、特別講演が行われ、分科会では、社会福祉法人共通の課題といえる(1)ICTの活用、(2)人材定着・離職防止、(3)社会福祉法人のPR戦略の3つのテーマを取り上げ、熱心に研究協議が行われました。

現在、地域社会は少子高齢化や地域の過疎化、人と人との関係性や地域社会とのつながりが希薄化することなどにより、さまざまな課題が顕在化しており、社会福祉法人には、地域共生社会の実現に向け、地域の様々な課題に向き合い、多様な福祉ニーズに的確に対応するとともに、安定的かつ質の高い福祉サービスの提供が求められています。

今回のセミナーを通して、参加者一同あらためて社会福祉法人の役割や使命、経営のあり方等について認識を深めました。

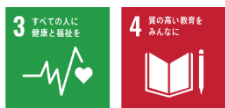


本多正識氏（吉本総合芸術学院NSC講師）による特別講演

## ラジオ講座「いきいきライフ」 受講者との双方向型に

### 基本目標 1

社会的孤立を生まない  
地域づくり  
関連するSDGsゴール



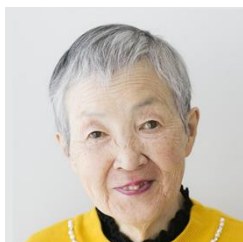
本会で実施しているラジオ講座は、令和4年度に「いきいきライフ」にリニューアルし、ロゴを作成、より多くの方の参加を促すため、「川柳コンテスト」をスタートしました。

第2弾となる今年度、「自慢」をテーマとした川柳を募集したところ、84名の方から166句（2句82名、1句2名）の応募がありました。

12月に選考会を開催し、優秀作品5句が選ばれました。3月3日放送のラジオ講座「いきいきライフ」（テーマ『川柳を楽しみましょう』）内にて優秀作品を発表しました。

3月14日には、フェニックス・プラザにてラジオ講座修了式・川柳コンテスト表彰式を開催します。

合わせて、ACジャパン「とにかくバターボックスに立ってみる、バットを振ったら当たるかもしれないじゃないですか」のCMで広く知られる最高齢プログラマーの若宮正子氏による「公開講座」を予定しています。



若宮正子氏

## 介護従事者対象の研修が盛況（介護実習・普及センター事業）

基本目標 2  
地域と福祉を支える  
担い手づくり

関連するSDGsゴール



組織改編に伴い、令和5年度から嶺南支所（小浜市・白鬚ビル内）で介護実習・普及センター業務を行っています。

介護従事者向けの介護技術向上研修はオンラインでの開催、対面開催として訪問指導研修や出前講座を行っています。

長く新型コロナの影響があり研修回数は抑えられていましたが、5類に移行したこともあり介護事業所の研修ニーズが高まったことを受け、昨年度と比較して受講者・開催数が大幅に伸びました。

職員に定期的な研修を受講させることで、職場全体の離職率低下に寄与するという研究論文もあります。

今後も引き続き、介護・福祉を支える担い手の育成および定着に向けて取り組んでまいります。

	令和4年度		令和5年度
介護技術向上研修	年間18回開催 受講者数188名	受講者数1.7倍	年間18回開催 受講者数315名
介護職員等訪問指導研修	開催数19事業所	開催数1.7倍	開催数33事業所

## 「ちょこっと就労」成果報告会を開催！

福井県福祉人材センター・嶺南福祉人材バンク無料職業紹介所では、福祉施設等における補助的な仕事（食事の配膳・下膳、清掃、洗濯、利用者の送迎等）を週に数日・短時間従事する「ちょこっと就労」を推進し、介護職員の負担軽減を目指しています。

さらなる「ちょこっと就労」の普及を目指し、3月6日（水）県社会福祉センターにて今年度の成果報告会を開催しました。

はじめに、青垣労務管理事務所代表の青垣達也様より「短時間就労の雇用と労務管理について」をテーマに講義をいただき、その後参加施設である、社会福祉法人坂井福祉会（あわら市・坂井市）と社会福祉法人すのうどろっぷ（福井市）から、採用に向けた取り組みや就労者の現況などを報告いただきました。

講師の青垣様からは、坂井福祉会の「業務（専門性の有無）の切り分けを行い、役割を明確した点」、すのうどろっぷの「雇用者の能力（経験）に合わせた役割を任せている点」を高く評価されました。

深刻化する福祉人材不足の中で「ちょこっと就労」がその一助となるよう今後も推進していきます。

基本目標 2  
地域と福祉を支える  
担い手づくり

関連するSDGsゴール



事業所からの発表の様子